

ノースダコタ州：小麦作柄と気象状況

2009 年 7 月 26 日現在

概況 ノースダコタ州の 2009 年 7 月 26 日に終る 1 週間の気象は、少雨の平年並み気温の気象であった。土壌水分過多の圃場の多いNE地区やSE地区では乾燥気象は歓迎されたが、乾燥地帯では更に雨を必要としていた。1 週間の州平均農作業稼動日数は 6.8 日（前週：6.0 日）であった。Topsoil及びSubsoilの土壌水分は前週より減少した。硬質春小麦の生育は遅れているが、好天により著しく進んだ。硬質春小麦は 92%が出穂し、全体の 52%が乳熟期（Milky dough、昨年：90%、5 年平均：86%）となり、10%が登熟期となった。Durum小麦の 83%が出穂（昨年同期：93%、5 年平均：87%）し、43%が乳熟期となった。硬質春小麦の作柄は前週より多少落ち “Excellent” が減った。Durum小麦の作柄は前週より改善した。

2009 年産硬質春小麦の作付けトップの品種は、2005 年に North Dakota State University(NDSU)より発表された “Glenn” で作付け面積比率は 24%（昨年：28%）であった。Glenn は東部 3 地区を除き、各地区にて作付けトップの品種である。耐病性が高く、2 次加工適正の極めて良い品種と評価されている。2007 年に NDSU よりリリースされた品種 “Faller” は大躍進し、全州にて 17%（昨年：2%）の作付面積率であった。蛋白質は Glenn を下回るが、単位収量と耐病性に優れている。NE 地区及び EC 地区のトップ品種である。第 3 位は Briggs (7.6%)、続いて Freyr(7.0%)、Steele-ND (5.8%) となっている。Durum小麦の第 1 位の品種は Divide(2005 年に NDSU よりリリースされた)で 20.6%(昨年:7.6%)を占めた。高単位収量、耐病性に優れ、更に他の品種より加工適正に優れている。その他の品種として Mountrail や Lebsack、Pierce、Alcabo 等があるが、Divide は将来性が高い品種と言われる。

土壌水分(*)

(%)		Very Short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil	This week	2	23	71	4
	Last week	0	12	79	9
	Last year	21	36	42	1
	5-Yr Avg.	19	28	49	4
Subsoil	This week	1	16	75	8
	Last week	1	10	80	9
	Last year	22	36	42	0
	5-Yr Avg.	16	27	53	4

春小麦の生育状況(*)

(%)		This week	Last week	Last year	5-yr. Average
Spring Wheat	Headed	92	79	100	100
	Milky	52	30	90	86
	Turning	10	2	54	55
Durum wheat	Headed	83	62	93	87
	Milky	43	14	73	64
	Turning	6	0	50	33

*Turning : Turning color

春小麦の作柄状況(*)

Hard Red Spring	Very poor	Poor	Fair	Good	Excellent
This week (%)	0	2	12	72	14
Last week (%)	0	2	13	67	18
Durum Wheat					
This week (%)	0	1	14	71	14
Last week (%)	0	1	16	69	14

(*) Source: USDA, NASS North Dakota Office. 5-yr average means 2004, 2005, 2006, 2007 & 2008 crop average.